

四 半 期 報 告 書

(第76期第2四半期)

自 2022年7月1日

至 2022年9月30日

アトムクス株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

【表紙】

第一部 【企業情報】	1
第1 【企業の概況】	1
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【事業の内容】	1
第2 【事業の状況】	2
1 【事業等のリスク】	2
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	2
3 【経営上の重要な契約等】	3
第3 【提出会社の状況】	4
1 【株式等の状況】	4
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期連結財務諸表】	8
2 【その他】	17
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	18

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年11月11日

【四半期会計期間】 第76期第2四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

【会社名】 アトムクス株式会社

【英訳名】 ATOMIX CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 神保 敏和

【本店の所在の場所】 東京都板橋区舟渡三丁目9番6号

【電話番号】 03(3969)3111

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員管理統括部長 富士田 学

【最寄りの連絡場所】 東京都板橋区舟渡三丁目9番6号

【電話番号】 03(3969)0471

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員管理統括部長 富士田 学

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第75期 第2四半期 連結累計期間	第76期 第2四半期 連結累計期間	第75期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (千円)	5,148,879	5,306,560	11,061,965
経常利益 (千円)	178,926	43,684	447,583
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	187,132	16,252	378,487
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	123,350	17,254	294,165
純資産額 (千円)	9,798,620	9,894,597	9,971,483
総資産額 (千円)	13,521,684	13,668,413	14,543,553
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	35.31	3.06	71.38
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	72.5	72.4	68.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	355,238	70,123	694,822
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△31,307	△234,246	△149,759
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△135,246	△140,432	△180,894
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	3,012,525	2,883,482	3,188,023

回次	第75期 第2四半期 連結会計期間	第76期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	15.67	△3.27

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社、以下同じ)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され景気は緩やかに回復傾向にあるものの、ウクライナ情勢に起因する原材料価格の高騰や調達リスクの深刻化及び急激な円安進行など依然として不透明で厳しい状況が続いています。

このような厳しい環境の中、当社グループは製品・サービスを通じて社会課題を解決し持続可能な社会の実現に貢献するよう製品開発・営業活動を進めてきました。また、原材料等の高騰に対して一部製品の価格改定を行い利益確保に努めましたが度重なる原材料価格の高騰により利益は厳しい状況となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高53億6百万円(前年同期51億48百万円)、営業利益36百万円(同 1億66百万円)、経常利益43百万円(同 1億78百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益16百万円(同 1億87百万円)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

<塗料販売事業>

建築用・床用塗料は、一部製品において原材料の調達ができず欠品となり影響を受けましたが、ASシステム(ドローン)による営業活動により屋根材が伸長したこと、主要な顧客である製造業の工場床の改修工事が順調だったこと、価格改定前の先行購入が進んだことにより前年を上回りました。

道路用塗料は、公共工事は底堅く推移しており特に通学路対策や弱者対策により路面標示用塗料と視覚障がい者用製品が伸長し前年を上回りました。

アトムレイズ(水性アクリルゴム系塗膜防水材料)は、レイズ工業会の会員数は順調に増加し営業活動を行っていますが、案件受注にはいたらず前年を下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の塗料販売事業の売上高は前年と比べて2億40百万円増加し50億56百万円(前年同期比5.0%増)となりました。

<施工事業>

床材工事は製造工場の案件により昨年同様となりましたが、子会社アトムテクノスでの工事受注が少なかったため前年を下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の施工事業の売上高は前年と比べて82百万円減少し2億49百万円(前年同期比24.9%減)となりました。

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて8億75百万円減少し、136億68百万円となりました。これは主に、現金及び預金で3億4百万円、受取手形、売掛金及び契約資産で5億79百万円減少したためです。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて7億98百万円減少し、37億73百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金で3億57百万円、電子記録債務で54百万円、賞与引当金で1億50百万円、未払法人税等で79百万円減少したためです。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて76百万円減少し、98億94百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益を16百万円計上したものの、配当金で95百万円減少したためです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下、資金という）の残高は28億83百万円で、前連結会計年度末より3億4百万円減少しました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりです。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、得られた資金は70百万円（前年同期は、3億55百万円獲得）となりました。これは主に、賞与引当金の減少で1億50百万円、仕入債務の減少により4億11百万円減少したものの、売上債権の減少で5億74百万円増加したためです。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は2億34百万円（同 31百万円使用）となりました。これは主に、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出で2億34百万円減少したためです。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は1億40百万円（同 1億35百万円）となりました。これは主に、長期借入金の返済で30百万円、配当金の支払で94百万円、リース債務の返済による支出で15百万円減少したためです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億40百万円です。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,242,000	7,242,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	7,242,000	7,242,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日	—	7,242,000	—	1,040,000	—	680,400

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
アトムクス取引先持株会	東京都板橋区舟渡3-9-6	914	16.36
東京中小企業投資育成株式会社	東京都渋谷区渋谷3-29-22	700	12.52
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	東京都中央区晴海1-8-12	321	5.74
西川 正洋	神奈川県逗子市	280	5.01
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口・75715口)	東京都港区浜松町2-11-3	280	5.00
ナラサキライン株式会社	北海道勇払郡むかわ町大成1-40	134	2.40
東洋テック株式会社	大阪府大阪市浪速区桜川1-7-18	126	2.25
アトムクス社員持株会	東京都板橋区舟渡3-9-6	106	1.91
楠本化成株式会社	東京都千代田区内神田1-11-13	106	1.89
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	106	1.89
計	—	3,075	55.02

- (注) 1. 所有株式数は、千株未満を切り捨てて記載しています。
2. 所有株式数の割合は小数点以下第3位を切り捨てて記載しています。
3. 上記のほか自己株式1,652千株を保有しています。
4. 「発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合」の自己株式は、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が所有する280千株を除いた、1,652千株を控除して算出しています。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,652,600	—	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,588,500	55,885	同上
単元未満株式	普通株式 900	—	—
発行済株式総数	7,242,000	—	—
総株主の議決権	—	55,885	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が所有する当社株式280,000株(議決権2,800個)が含まれています。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式45株が含まれています。

② 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
アトムクス株式会社	東京都板橋区舟渡三丁目9番6号	1,652,600	—	1,652,600	22.81
計	—	1,652,600	—	1,652,600	22.81

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が保有している当社株式280,000株は、上記自己株式数には含まれていません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しています。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、保森監査法人による四半期レビューを受けています。

なお、監査法人保森会計事務所は、2022年8月1日に名称を変更し、保森監査法人となりました。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,188,023	2,883,482
受取手形、売掛金及び契約資産	3,066,700	2,486,760
電子記録債権	722,837	774,827
商品及び製品	1,209,046	1,164,210
仕掛品	181,420	194,716
原材料及び貯蔵品	630,711	630,873
その他	25,925	37,818
貸倒引当金	△470	△8,815
流動資産合計	9,024,194	8,163,875
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,074,010	1,043,253
土地	2,895,299	2,895,299
その他（純額）	360,516	338,588
有形固定資産合計	4,329,827	4,277,142
無形固定資産	469,741	525,765
投資その他の資産		
その他	791,406	726,958
貸倒引当金	△71,616	△25,328
投資その他の資産合計	719,790	701,630
固定資産合計	5,519,358	5,504,538
資産合計	14,543,553	13,668,413
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,330,752	972,994
電子記録債務	1,520,361	1,466,274
短期借入金	160,000	160,000
未払法人税等	108,469	28,755
賞与引当金	179,259	28,852
その他	650,958	516,867
流動負債合計	3,949,802	3,173,744
固定負債		
長期借入金	75,000	45,000
役員退職慰労引当金	80,439	81,284
株式給付引当金	105,249	113,697
退職給付に係る負債	281,324	284,719
資産除去債務	43,560	43,793
その他	36,693	31,575
固定負債合計	622,267	600,070
負債合計	4,572,069	3,773,815

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,040,000	1,040,000
資本剰余金	740,308	740,308
利益剰余金	9,011,818	8,933,051
自己株式	△1,003,880	△1,003,002
株主資本合計	9,788,246	9,710,358
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	178,931	180,335
退職給付に係る調整累計額	4,305	3,903
その他の包括利益累計額合計	183,236	184,238
純資産合計	9,971,483	9,894,597
負債純資産合計	14,543,553	13,668,413

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高		
商品及び製品売上高	4,816,143	5,056,775
工事売上高	332,736	249,784
売上高合計	5,148,879	5,306,560
売上原価		
商品及び製品売上原価	3,371,758	3,700,614
工事売上原価	258,550	207,035
売上原価合計	3,630,308	3,907,650
売上総利益	1,518,570	1,398,910
販売費及び一般管理費	※1 1,352,239	※1 1,362,776
営業利益	166,330	36,134
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	6,895	5,628
為替差益	392	—
共同研究収入	—	8,962
その他	6,641	4,626
営業外収益合計	13,933	19,221
営業外費用		
支払利息	1,337	958
為替差損	—	1,590
事故関連損失	—	9,122
営業外費用合計	1,337	11,671
経常利益	178,926	43,684
特別利益		
固定資産売却益	3	349
投資有価証券売却益	112,714	—
特別利益合計	112,717	349
特別損失		
固定資産除却損	418	1,313
特別損失合計	418	1,313
税金等調整前四半期純利益	291,225	42,721
法人税、住民税及び事業税	78,191	16,492
法人税等調整額	25,902	9,977
法人税等合計	104,093	26,469
四半期純利益	187,132	16,252
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	187,132	16,252
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△63,484	1,404
退職給付に係る調整額	△297	△402
その他の包括利益合計	△63,781	1,002
四半期包括利益	123,350	17,254
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	123,350	17,254
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	291,225	42,721
減価償却費	162,243	156,736
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	48,454	△37,943
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△220,154	△150,406
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△9,941	845
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△6,640	7,242
退職給付に係る調整累計額の増減額 (△は減少)	△431	△582
株式給付引当金の増減額 (△は減少)	8,992	9,326
受取利息及び受取配当金	△6,899	△5,633
共同研究収入	—	△8,962
支払利息	1,337	958
事故関連損失	—	9,122
為替差損益 (△は益)	△1	△14
固定資産売却損益 (△は益)	△3	△349
固定資産除却損	418	1,313
投資有価証券売却損益 (△は益)	△112,714	—
売上債権の増減額 (△は増加)	1,058,539	574,211
棚卸資産の増減額 (△は増加)	61,207	31,377
仕入債務の増減額 (△は減少)	△529,634	△411,844
その他	△250,720	△71,706
小計	495,278	146,412
利息及び配当金の受取額	6,899	5,633
共同研究による受取額	—	8,962
利息の支払額	△1,324	△966
事故関連損失の支払額	—	△683
法人税等の支払額	△145,615	△89,845
その他	—	611
営業活動によるキャッシュ・フロー	355,238	70,123
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△128,337	△94,799
有形固定資産の売却による収入	169	330
無形固定資産の取得による支出	△109,020	△139,783
投資有価証券の売却による収入	205,881	—
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	—	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△31,307	△234,246
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	100,000	100,000
短期借入金の返済による支出	△100,000	△100,000
長期借入金の返済による支出	△33,610	△30,000
配当金の支払額	△83,216	△94,681
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△18,420	△15,750
財務活動によるキャッシュ・フロー	△135,246	△140,432
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	14
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	188,686	△304,540
現金及び現金同等物の期首残高	2,823,839	3,188,023
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 3,012,525	※1 2,883,482

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
(税金費用の計算) 連結子会社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
(新型コロナウイルス感染症に伴う会計上の見積りについて) 当感染症の収束時期等を合理的に予測することは未だ困難な状況ですが、当社グループにおける会計上の見積りの仮定は、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した内容から大きな変更はありません。

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
給料及び手当	408,968	402,641
貸倒引当金繰入額	48,454	△975
賞与引当金繰入額	41,676	14,846
退職給付費用	13,430	13,299
役員退職慰労引当金繰入額	5,772	5,597
運賃	318,927	332,398

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金勘定	3,012,525	2,883,482
現金及び現金同等物	3,012,525	2,883,482

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	83,840	15	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

(注)2021年6月29日定時株主総会による配当金の総額には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が保有する自社の株式に対する配当金4,420千円が含まれています。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	95,019	17	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

(注)2022年6月29日定時株主総会による配当金の総額には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が保有する自社の株式に対する配当金4,785千円が含まれています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	塗料販売事業	施工事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	4,816,143	332,736	5,148,879	5,148,879
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8,975	—	8,975	8,975
計	4,825,118	332,736	5,157,855	5,157,855
セグメント利益	312,327	53,561	365,888	365,888

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	365,888
全社費用(注)	△199,557
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	166,330

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	塗料販売事業	施工事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	5,056,775	249,784	5,306,560	5,306,560
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,821	—	9,821	9,821
計	5,066,597	249,784	5,316,382	5,316,382
セグメント利益	168,619	22,809	191,428	191,428

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	191,428
全社費用(注)	△155,294
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	36,134

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	塗料販売事業	施工事業	計	
一時点で移転される財及びサービス	4,735,045	128,246	4,863,291	4,863,291
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	81,098	204,489	285,587	285,587
顧客との契約から生じる収益	4,816,143	332,736	5,148,879	5,148,879
外部顧客への売上高	4,816,143	332,736	5,148,879	5,148,879

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	塗料販売事業	施工事業	計	
一時点で移転される財及びサービス	4,976,104	119,088	5,095,193	5,095,193
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	80,670	130,696	211,367	211,367
顧客との契約から生じる収益	5,056,775	249,784	5,306,560	5,306,560
外部顧客への売上高	5,056,775	249,784	5,306,560	5,306,560

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1 株当たり四半期純利益金額 (円)	35.31	3.06
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	187,132	16,252
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	187,132	16,252
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,298	5,308

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
2. 株主資本において自己株式として計上されている日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めています。なお、1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第2四半期連結累計期間が290,508株、当第2四半期連結累計期間が280,475株です。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月10日

アトムクス株式会社
取締役会 御中

保森監査法人

東京都千代田区

代表社員 公認会計士 山 崎 貴 史
業務執行社員

代表社員 公認会計士 笹 部 秀 樹
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアトムクス株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アトムクス株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しています。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年11月11日

【会社名】 アトミクス株式会社

【英訳名】 ATOMIX CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 神保 敏和

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 東京都板橋区舟渡三丁目9番6号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 神保敏和は、当社の第76期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。